

× 昨日の自分に負けない自分でいられるように

前へ

令和8年
10月7日(水)
第5号

目標の先にあるもの

大泉西中学校の2大行事のうちの一つ、合唱コンクールが終わりました。前日にも話しましたが、この合唱コンクールを行うために1年前から会場の確保を始め、今年度4月に先生方で計画を立て始め、皆さんは実行委員を選出し、自由曲の決定、指揮者、伴奏者、パートリーダーの選出等を経て、音楽の授業での練習が始まり、クラスでの練習が始まり本番を迎えるということになりました。歌を歌うということ以外にそれだけ多くの事や時間がこの合唱コンクールには費やされているということが言えると思います。

当日はどのクラスも、どの学年も真剣に最後の練習に主体的に取り組み、本番のステージで素晴らしい合唱を披露していたと思います。本当にどのクラスが受賞するのかわからない状況だったと思います。それだけどのクラスも頑張り、成果を上げ、それを本番の舞台で発揮できていたのだと思います。

2学期の始業式でお伝えしましたが「合唱に一生懸命に取り組む」ということが良い合唱を創っていくための具体的行動の一つです。言い換えれば「素敵な合唱ができる人＝素敵な人」「素敵な合唱ができるクラス＝素敵なクラス」ということが言えます。そのような意味で今回の合唱コンクールへの取り組み、本番のステージから大泉西中学校は合唱コンクールを通して良い学校に向かって前に進んだと言えるでしょう。

ところで、今回のクラスでの取り組みでは少しも波風が立たなかったつまり問題、課題がなかったというクラスはあるでしょうか。少なからず問題や課題が見られたクラスがあると思います。

例えば、

- *練習が始まるのに時間がかかった
- *歌っている時にしっかりと立っていない人がいる
- *実行委員の話を聞いてくれない人がいる

等

しかし、どのクラスも金賞を目指し、課題を乗り越え本番のステージに立ち、素晴らしい合唱を披露してくれたことと思います。

この金賞を取るということが今回の合唱コンクールの最終目標であったとするならば、それを達成できたクラスは16クラス中3クラスしかありません。私たちは結果がすべてのプロのチームではありません。そこで大切なのは

「金賞を取る」という目標の先にあるものだと思います。

それは、

- *合唱コンクールを通してクラスでクラスメイトの違った一面が見られた
- *合唱コンクールを通してクラスがよりまとまった
- *合唱コンクールを通してクラスの居心地が良くなった
- *合唱コンクールを通してクラスがより好きになった

など一つでも感じられることがあればこの合唱コンクールはとても大きな意味のある行事になったと思います。あなたは、そしてあなたのクラスはこの合唱コンクールを通してどのようなことを得ることができたでしょうか？

(文責 齋藤 元)

